

## 学校評議員会記録

### 学校評議員からの意見・提言

平成27年1月26日、本校山目校舎で学校評議員会が行われ、今年度の学校評価に下記のとおり意見と提言をいただきました。

#### <学校評価について>

- (1) 学校評価に関する調査の結果をどう分析するか。「幼児児童生徒が成長したかどうか」を教職員がきちんと理解できているか。教職員の自己評価と保護者の評価等の違いを比較検討することが重要。概ね教職員の評価と保護者の評価は一致しているので、目標設定として良いのではないかと。
- (2) 評価項目が多く、これらの集約や分析に多くの時間を費やしているのではないかと。評価項目は精選して最小限にとどめ、その分を子どもたちの教育に時間を充ててもらってよいと思う。
- (3) 復興・防災教育については、なかなか難しい面がある。要支援者の避難行動支援に関して、国の指針を受けて県が出している取組方針などは膨大な資料で、これを読み解くのは難しい。市の消防署に学校の防災教育という視点でアドバイスをもらおうとよい。  
有事の際の対応について、何を優先させるか。最低限動けるルールを決めておくことも大事である。
- (4) 児童生徒の評価が全般的に高い評価になっている点、中学部の評価も「わからない」の回答を差し引いて考えれば高い評価と考えられる。保護者や関係機関との評価と合わせ、全体として高い評価になっており、一関清明の学校運営が評価されていると受け取ってよいと思う。教職員等からの改善策を生かしながら、自信を持って今の教育内容、学校運営を継続していったらよいと思う。

#### <全体をとおして>

- (5) 今年度、幼稚部には定期的に普段の自由遊びに参加してもらった。これからもよい関わりをもっていきたいと思う。
- (6) 進路担当者が努力している成果が出ている。福祉は予算がなく、ボランティアも自分の持ち出しがないとできない。福祉に携わる若者は生活ができないのでやめている。制度が変わりB型事業所は成果を出さないと国からの予算が減額される現状。子どもたちの障がい複雑化しており、支援だけでなく、指導をすること（教えること）が必要となってきた。
- (7) 一関市の企業は受入状況がよい。市は28年度から10年計画（総合計画）を策定するので、行政にアプローチするとよい。受け入れ事業も確保できるのではないかと。  
大震災以降の教育環境における防災対策はあちこちで裁判になっている。結果が悪いと裁判になっている。決まりやルールは必要だが、細かすぎると機能しなくなるので、骨太の部分（最低限の部分）を決めて、市へのアプローチを是非行ってほしい。